

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和4年7月

麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：埼玉県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

埼玉県は、全耕地面積に対して水田の割合が約55%を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、水田面積を維持し、安定した水田農業経営を実現するには、飼料用米や加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大に当たっては、生産者戸数が減少し、担い手への集積が進む中で、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、耐病性品種等への切り替えを実需の理解を得ながら進める。

現在、埼玉県においては、水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

(2) 県で推進する団地の基準等

埼玉県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・埼玉県の麦については、19, 300トン(2年産:全農集荷実績)のうち、約8割強が製粉用として、県内外の製粉企業に販売されているが、実需者からの需要量に対し、供給量を満たしておらず、増産を図る必要がある。

・埼玉県の大豆については、産地品種銘柄である「里のほほえみ」において、実需者からの要望量に対し、生産量を満たしていないことに加え、近年の天候要因による不作が続き安定供給には至っていない。そのため、湿害対策技術等を導入することで単収を向上し、増産を図る必要がある。

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

(2) 生産における現状と課題

近年、麦の作付面積は減少傾向で推移しているものの、実需者からは引き続き数量と品質の安定を求められている。大豆については作付面積が増加傾向で推移しているものの、単収が低いことから安定供給には至っていない。単収及び品質低下の要因としては、圃場の排水不良や地力の低下などが考えられ、湿害対策技術の導入や、適切な施肥、土壌改良資材の施用等による対策が必要となっている。また、近年は、担い手への農地の集積が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしている。そのため、作業規模に見合った農業機械の導入や作付の団地化の推進等による農地の集約が課題となっている。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産		平成30年産		令和元年産		令和2年産		平成30年産		令和元年産		令和2年産	
小麦	農林61号	(50)	65	(47)	60	(23)	30	(210)	210	(148)	148	(206)	206	(105)	137	(70)	89	(47)	62
	さとのそら	(3,057)	3,960	(3,039)	3,880	(2,829)	3,560	(383)	383	(430)	430	(359)	359	(11,708)	15,167	(13,068)	16,684	(10,156)	12,780
	あやひかり	(845)	1,095	(885)	1,130	(1,057)	1,330	(360)	360	(459)	459	(346)	346	(3,042)	3,942	(4,062)	5,187	(3,657)	4,602
	ハナマンテン	(77)	100	(78)	100	(79)	100	(249)	249	(382)	382	(281)	281	(192)	249	(298)	382	(222)	281
二条大麦	彩の星	(653)	699	(623)	670	(647)	695	(347)	347	(305)	305	(308)	308	(2,266)	2,426	(1,900)	2,044	(1,993)	2,141
六条大麦	すずかぜ	(148)	198	(151)	194	(147)	176	(437)	437	(359)	359	(430)	430	(647)	865	(542)	696	(632)	757
裸麦	イチバンボシ	(10)	11	(9)	10	(9)	10	(317)	317	(283)	283	(300)	300	(32)	35	(25)	28	(27)	30
	その他	(38)	40	(49)	52	(88)	92	(305)	305	(310)	310	(310)	310	(116)	122	(152)	161	(273)	285
作物計		(4,878)	6,168	(4,881)	6,096	(4,879)	5,993	—	—	—	—	—	—	(18,107)	22,942	(20,117)	25,271	(17,007)	20,938

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)	
大豆	タチナガハ	(8.0)	12.0	(18.9)	27.6	(16.9)	24.2	(137)	137	(96)	96	(86)	86	(11.0)	16.4	(18.1)	26.5	(14.6)	20.8
	白光	(41.3)	61.7	(42.9)	62.8	(39.8)	56.9							(56.5)	84.5	(41.2)	60.3	(34.2)	48.9
	青山在来	(35.8)	53.6	(38.5)	56.3	(23.5)	33.6							(49.1)	73.4	(37.0)	54.0	(20.2)	28.9
	エンレイ	(3.3)	5.0	(2.7)	4.0	(7.0)	10.0							(4.6)	6.9	(2.6)	3.8	(6.0)	8.6
	借金なし	(17.3)	25.8	(25.2)	36.8	(16.0)	22.8							(23.6)	35.3	(24.2)	35.3	(13.7)	19.6
	里のほほえみ	(300.5)	449.4	(288.4)	421.9	(294.3)	420.6							(411.7)	615.7	(276.9)	405.0	(253.1)	361.7
	その他	(47.8)	71.5	(39.4)	57.6	(47.5)	67.9							(65.5)	98.0	(37.8)	55.3	(40.9)	58.4
作物計		(454.0)	679.0	(456.0)	667.0	(445.0)	636.0							(622.0)	930.2	(437.8)	640.3	(382.7)	547.0

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1) 取組方針

① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、大規模生産者を中心に規模拡大を進め、生産量の拡大に向けて排水性の向上等に取り組み、単収向上を図る。また、JA、県で協力し、品質向上(タンパク値向上)に向けた施肥改善等の取組を進める。大豆については、埼玉県奨励品種である「里のほほえみ」の栽培技術の改善により、単収を向上させることで安定供給を図る。

② 団地化の推進

人・農地プランや農地中間管理事業等による農地集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを推進する。土壌・排水条件の改善・作業の効率化等を図るため、各地区の団地化の推進に向けた計画作成を支援する。

③ 土づくり

地力の回復に向けては土壌診断の実施と結果に基づいた施肥を推進する。

④ 排水改良

排水の改善に向けては、暗渠排水の設置・更新を進めるとともに、簡易な排水対策を進める。

⑤ 新たな需要の拡大

実需者との情報交換を行い、需要に応じた生産をすすめ、販路拡大を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

※ 都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)						令和9年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
小麦	農林61号	(23)	30	(206)	206	(47)	62	(23)	30	(206)	206	(47)	62	
	さとのそら	(2,829)	3,560	(359)	359	(10,156)	12,780	(2,829)	3,560	(359)	359	(10,156)	12,780	
	あやひかり	(1,057)	1,330	(346)	346	(3,657)	4,602	(1,069)	1,391	(360)	360	(3,848)	5,008	
	ハナマンテン	(79)	100	(281)	281	(222)	281	(79)	100	(281)	281	(222)	281	
二条大麦	彩の星	(647)	695	(308)	308	(1,993)	2,141	(662)	710	(333)	333	(2,204)	2,364	
六条大麦	すずかぜ	(147)	176	(430)	430	(632)	757	(150)	179	(443)	443	(665)	793	
裸麦	イチバンボシ	(9)	10	(300)	300	(27)	30	(9)	10	(310)	310	(28)	31	
	その他	(88)	92	(310)	310	(273)	285	(148)	151	(330)	330	(488)	498	キラリモチの増加
作物計		(4,879)	5,993	-	-	(17,007)	20,938	(4,969)	6,131	-	-	(17,659)	21,817	

作物名	品種名	令和元年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆	-	(445)	636	(86.0)	86.0	(383)	547	(456)	651	(95)	97.0	(433)	631	
作物計		(445)	636	(86)	86.0	(383)	547	(456)	651	(95)	97.0	(433)	631	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

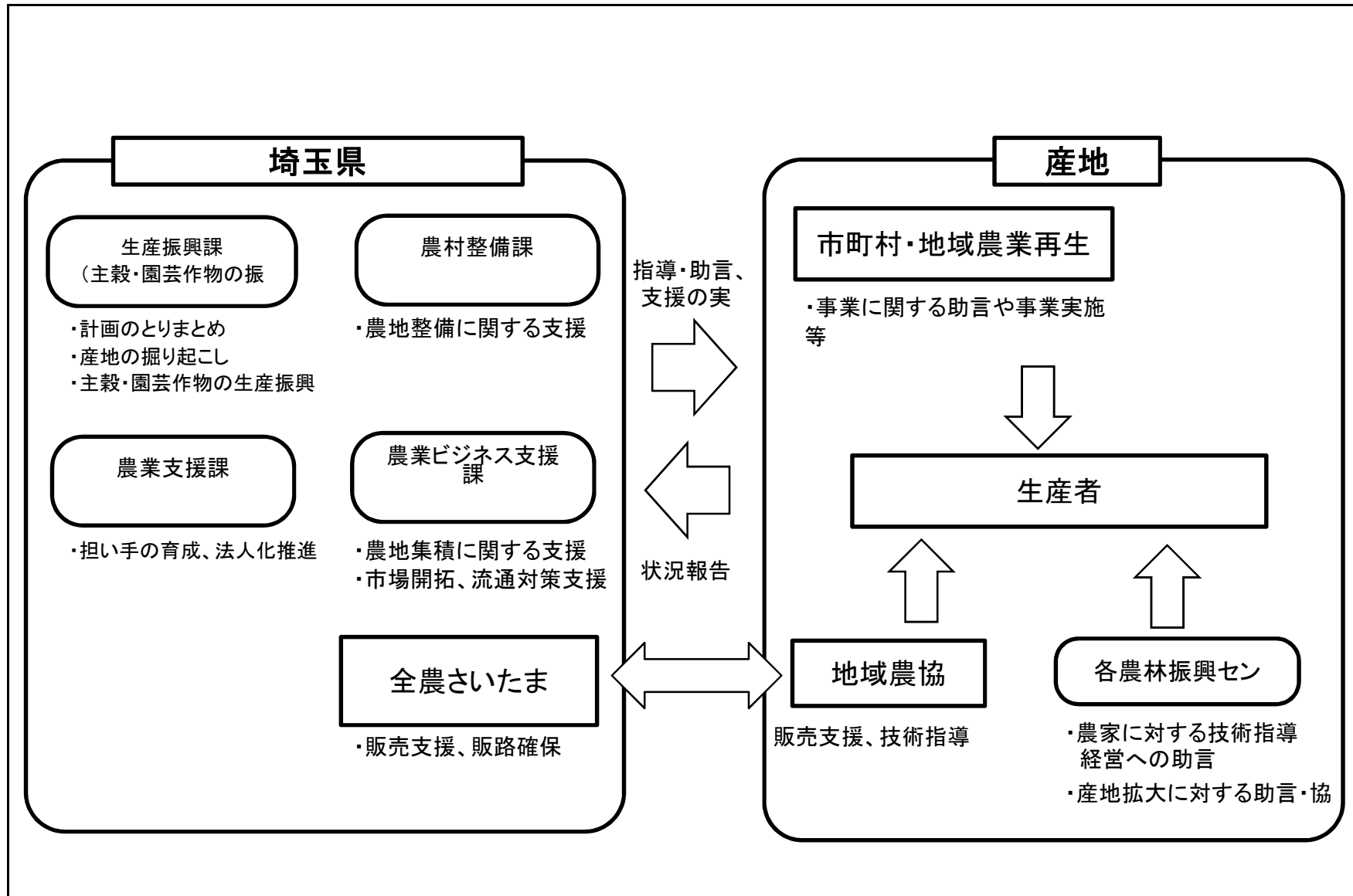
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	水田収益力強化ビジョン	令和3年	
2			
3			
具体的連携内容			
<p>本計画の実施に当たっては、本計画の内容を、県の「水田収益力強化ビジョン」に基づく水田利活用の推進との整合を図る。</p> <p>特に、団地化の推進にあたっては、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が、効果的に活用されるよう団地化を推進する。</p> <p>具体的には、麦・大豆増産に取り組む地域は、人・農地プランにおいても、作成時・見直し時に麦・大豆の増産に係る内容を盛り込み、作物の団地化も考慮しプランを作成することとする。</p>			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	当該事業により水田麦・大豆産地の生産体制の強化、収益性・生産性の向上を推進する。

※県段階で想定している事業名について、記載願います。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	行田市役所	行田市	麦・大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付するものとする。

(別添 2)

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和4年5月

麦・大豆産地生産性向上計画 行田市産地 (作成主体:行田市役所)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

行田市は、全耕地面積(3474.05ha)に対して主食用米(1690.28ha)の作付割合が約5割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、耐病性品種等への切り替えを実需の理解を得ながら早急に進め、単収の安定を実現する。

現在、行田市においては、行田市水田農業ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、小麦及び二条麦の作付面積が多く、そのほとんどがJAに出荷され、需要と供給のバランスが保たれている。昨今が主食用米の価格低迷や世界情勢等の影響により、国産麦の需要がより高まっているため、本市としても麦作の拡大を目指していく。

・また、市内にて生産しているはだか麦品種「キラリモチ」は、加工用として、県内の食品会社に販売されているが、需要量に対して、生産量が足りない状況であり、増産を図る必要がある。

・大豆については、埼玉県奨励品種である「里のほほえみ」の生産が主流であるが、本市の特産である「行田在来青大豆」の生産量を増やし、青大豆を加工した商品の開発や生産を希望する実需者の需要に確実に応えられるよう、安定した供給対策と作付面積の拡大を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦・大豆ともに横ばいで推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要だが、団地化率は横ばいであり、改善が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)	
小麦	あやひかり	(414)	415	(417)	418	(388)	389	(355)	355	(355)	355	(386)	386	(1,470)	1,473	(1,480)	1,484	(1,498)	1,502
大麦	二条大麦(彩の星)	(332)	332	(322)	322	(315)	315	(444)	444	(444)	444	(375)	375	(1,474)	1,474	(1,430)	1,430	(1,181)	1,181
	六条大麦(すずかぜ)	(24)	24	(28)	28	(22)	22	(378)	378	(378)	378	(427)	427	(91)	91	(106)	106	(94)	94
はだか麦	キラリモチ	(7)	7	(11)	12	(40)	41	(420)	420	(420)	420	(420)	420	(29)	29	(46)	50	(168)	172
作物計		(777)	778	(778)	780	(765)	767	(399)	399	(399)	399	(402)	402	(3,064)	3,067	(3,062)	3,070	(2,941)	2,949

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
大豆	里のほほえみ・ 行田在来青大豆	(42)	43	(42)	43	(32)	32	(98)	98	(98)	98	(98)	98	(41)	42	(41)	42	(31)	31
作物計		(42)	43	(42)	43	(32)	32	(98)	98	(98)	98	(98)	98	(41)	42	(41)	42	(31)	31

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	あやひかり	140	33.8%	142	34.1%	146	37.6%	
大麦	二条大麦(彩の星)	100	30.0%	97	30.0%	99	31.4%	
	六条大麦(すずかぜ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
はだか麦	キラリモチ	4	57.1%	4	36.4%	12	30.5%	
作物計		244	31.4%	243	31.2%	257	33.6%	

作物名	品種名	平成30年度		令和元年度		令和2年度(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	里のほほえみ・ 行田在来青大豆	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

埼玉県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。